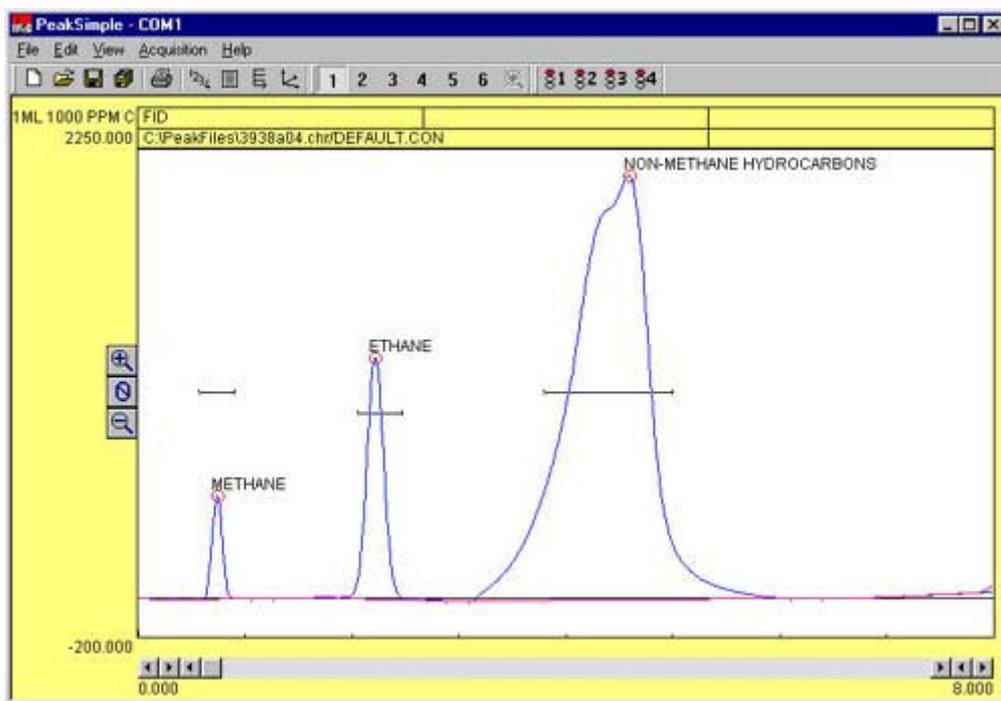




- FID 検出器
- 10ポート“バックフラッシュ”ガスサンプリングバルブ
- エアーコンプレッサー内蔵
- HayeSep-D カラム

このEPA手法25に適応したガスクロマトグラフはFID検出器、10ポートの“バックフラッシュ”ガスサンプリングバルブを装備し、迅速にメタン/非メタンの定性を行います。

この典型的なメタン/非メタン分析の中で、非メタン炭化水素はメタン溶出後にバックフラッシュされていますが、切り替えタイミングはユーザーの要望に従って、メタンあるいはC3、C4、C5、C6炭化水素の溶出後に設定されています。



試料はバルブオープン上のバルブ Inlet ポートに接続されているガスサンプリングバルブに取り付けられた 1ml のサンプルループに満たされています。バルブは自動的に切り替えられ、試料はカラムに導入されます。そこでメタン（エタンも選択できます）を他の炭化水素と分離します。対象成分の溶出の後、サンプリングバルブは自動的にスタート状態に戻りますので、残りの炭化水素は検出器に導入されます。

カラム昇温、ガスサンプリングバルブの切り替え、データ処理、非メタンの定量は専用の PeakSimple ソフトで行い、報告レポートをプリントできます。

EPA 手法 25 では HayeSep-D カラムが標準ですが、ご希望により他のカラムもご用意できます。